

後醍醐天皇と船上山

鎌倉時代末期のこと、後醍醐天皇は鎌倉の北条幕府を倒して、天皇親政の世に復そうと計画されたが失敗に終わり、元弘2(1332)年3月に隠岐に配流となった。

しかしなおも倒幕を目指す後醍醐天皇は、翌年の閏2月24日の未明に島を脱出され、出雲地方を転々とした後、2月28日に伯耆の海岸(名和と大坂の二説あり)に着船された。天皇を奉迎した名和長年は直ちに船上山に立て籠もり、翌29日には攻め寄せてきた幕府方の佐々木清高の軍勢と合戦が始まったが、名和軍の強弓に攻め立てられ、幕府軍は攻撃することを一日で諦めて、退却してしまった。

この頃、中央では楠木正成らの官軍が奮戦していたが、その必勝を祈願して後醍醐天皇は船上山で金輪法という修行を七日間行われたことが「太平記」に記されている。また天皇は全国の官軍に「仁政を先にせよ」などの軍法を通達されたが、この間、船上山には臨時の朝廷が80日間在ったことになる。それには「神皇正統記」に「仮の宮を建て」とあるように、仮の御座所が設けられたに違いなく、それが天皇屋敷と呼ばれているところであろう。

A 屏風岩と千丈滝

船上山の東側は、山腹一帯にわたって約100万年前に形成された一大屏風を引きまわしたような柱状節理による溶岩壁(両輝石安山岩)が延々600mにも及ぶ。さらに、屏風岩の南には、垂直に切り立った高さ100m余りの岩場から、勢いよく流れ落ちる雄(おん)滝と雌(めん)滝があり、この2つの滝を千丈(せんじょう)滝という。



雄滝

雌滝



平成25(2013)年4月に完成した山頂の休憩舎には、トイレや休憩スペースがある。



F 鱒返しの滝

鱒返しの滝の上部は広いテラスになっており「一枚岩溪谷」と呼ばれている。船上山を縦横断する県道から500mほど谷沿いの遊歩道を登ったところにある。展望台から見るこの滝は、春は新緑、秋は紅葉の中から流れ落ちる水しぶきが映え、絵に描いたように美しい。また、夏には滝のまわりを川沿いに歩くと、岩肌を流れる水の音が心を和ませてくれる。

滝めぐりコース①

所要時間 片道 約30分
 鱒返しの滝入り口
 ↓ 500m 約30分 ↑
 滝見台

船上山の施設



鳥取県立 船上山少年自然の家
 船上山のふもとにある宿泊研修棟、体育館、キャンプ場などを備えた研修施設。5人以上であれば家族単位の利用もOK!
 ◎通年 ◎月曜・祝日・年末年始
 申込み ☎0858-55-7111
 FAX 0858-55-7119
 ※必ず10日前までに申込みを完了してください。

E 船上山万本桜公園

昭和62(1987)年にむらおこし事業のひとつとして町民が八重桜を植栽。また、生活環境保全林事業によりサクラ、ヤマツツジが植えられ、散策の森や野鳥の森をはじめ、遊歩道、広場などが整備された船上山万本桜公園がある。毎年4月上旬にはソメイヨシノ、4月下旬には遅咲きの八重桜が満開となり、長期間船上山と桜を楽しめる。



D 650年祭と大鳥居

船上山が「建武の新政」発祥の地として歴史に名を留めてからちょうど650年にあたる昭和58(1983)年、650年祭奉賛会が設立され、広く浄財を募って記念祭や各種の記念事業が行われた。船上山大鳥居は、この記念事業のひとつとして建立されたもので、高さ8m、幅11mの威容を誇る。



B 船上山は修験道の霊場だった

『伯耆民談記』によれば、船上山は智積仙人が修行した山で、赤衣上人が寺を開いて智積院(ちしゃくいん)と号したとされているが『鳥取県神社誌』には、赤衣上人は元明天皇の頃(8世紀初頭)の人で「智照権現の祠を建つ」と記されている。そして、「以後、両部の霊場となれり」とも記されており、船上山が修験道の霊場として開けてきたとしている。

「霊場」といえば、奥の院と呼ばれている所が古くから「熊野権現」として崇められていたことからすると、船上山は紀伊の熊野の山岳修行の霊場につながる山であったことが考えられ、『続日本後紀』に記されている陰陽博士の春苑宿禰が伯耆国八橋郡(やばせぐん、現在の琴浦町および北栄町の一部(東園、原、穂波以西)、大山町の一部(下甲、住吉、退休寺、羽田井以东))の人であったというのも、船上山が修験の霊場であったことと深い関係があったと考えられよう。そして陰陽師の安倍晴明の供養塔と伝えられる石塔が花見瀧墓地にあることも、船上山の麓に多くの山伏たちがいたことを思わせる事実である。

建武の新政に際して、船上山の寺院が荘厳になったのも束の間、戦国時代の度々の戦火によって寺坊は焼失し、『伯耆民談記』が書かれた寛保2(1742)年頃には寺坊は山上には一つも無く、竹内村に大乗院が移っていると記されている。

現在の船上神社は、明治初年の神仏分離によって創立されたもので、本殿は昭和9(1934)年の造営、拝殿は昭和18(1943)年に精神修養の道場として建てられた正道館の講堂を戦後に移築したものである。



C 船上山行宮碑

船上山山頂一帯を薄ヶ原といい、この東側にある小さい丘をお休み場という。後醍醐天皇が船上山に行在のときには、このお休み場で野立てをされたという。現在、このお休み場には、大正13(1924)年、鳥取県教育会によって建立された高さ3m70cm余りの船上山行宮碑がある。絶景を楽しむことができる。

船上山周辺スポット

天皇水

後醍醐天皇が船上山よりおくだりになり、大熊までおいでになると、にわかになどがかわいてきたがあたりに水がない。そこで天皇がそばの大岩を起こすよう指差されたので、村人が力をこめて岩をおこすと清水がこんこんと湧いて出た。それからこの清水を天皇水と呼ぶようになった。(以西村郷土誌より)



池田家

池田家は現在の宮木にあり、ここは昔、高木村といっていた。この地名の由来は、今から約1,000年前の寛仁年間に高木九兵衛という人が、今の米子市下の郷から移り住んで村を興したためと伝えられている。後醍醐天皇が船上山に立て籠もったときは、八代高木三郎兵衛が家の食糧を船上山に運び、名和長年とともに戦陣に加わったとも伝えられ、天皇が京都に還幸の際に立ち寄られ、お休みになったともいわれている。

滝めぐりコース②

所要時間 片道 約60分
 東坂登山口→横手道
 ↓ 400m 約50分 ↑
 雌滝
 ↓ 50m 約10分 ↑
 雄滝

山頂コース

所要時間 片道 約60分
 東坂登山口
 ↓ 1.0km 約45分 ↑
 山頂休憩舎
 ↓ 300m 約15分 ↑
 船上神社